

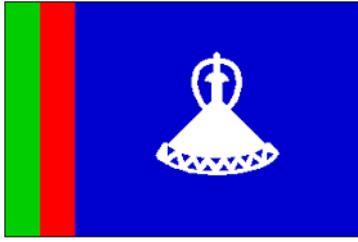
レソト王国

【国名】

- 「レソト」とは「バソト（ソト民族）の国」という意味。1966年に英国保護領「バストランド」から独立した。

【国旗】

- 1966年、独立当初の国旗は青地に白のバソト・ハット（ソト民族の民族衣装のひとつ）を基調とし、左に緑と赤の縦線が入っていた。青は空と雨、白は平和、緑は国土、赤は誠実を象徴する。
- 1987年、独立以来、レソトの政権を担っていたバソト国民党（BNP）に対するクーデター発生に伴い二つ目の国旗が制定される。白地の上のモチーフはバソト民族の盾・槍・棍棒を表し、白・水色・緑はそれぞれ平和、雨、繁栄を象徴した。
- 1993年、民政に移行した際に国旗が変更されなかったことは議論を呼び起こした。



1966～1987年の国旗



1987～2006年の国旗



現在の国旗

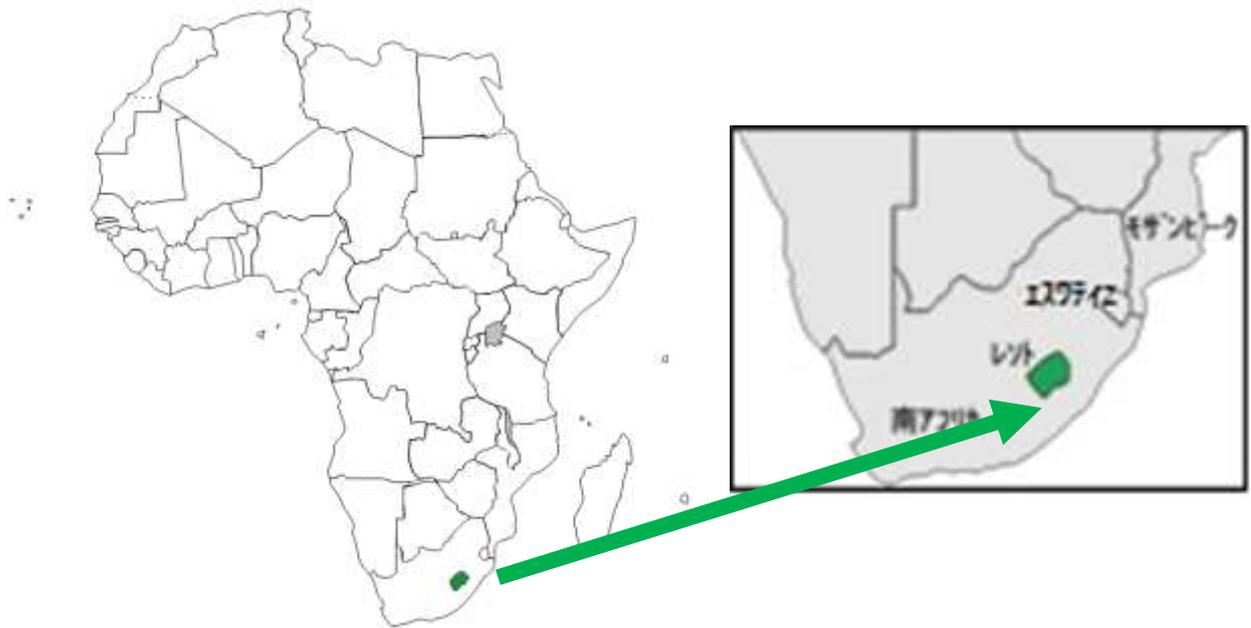
- 2006年10月、独立40周年を記念して現在の国旗が制定され、バソト・ハットのモチーフがレソト及び近隣国との平和の象徴として復活した。

【国土】

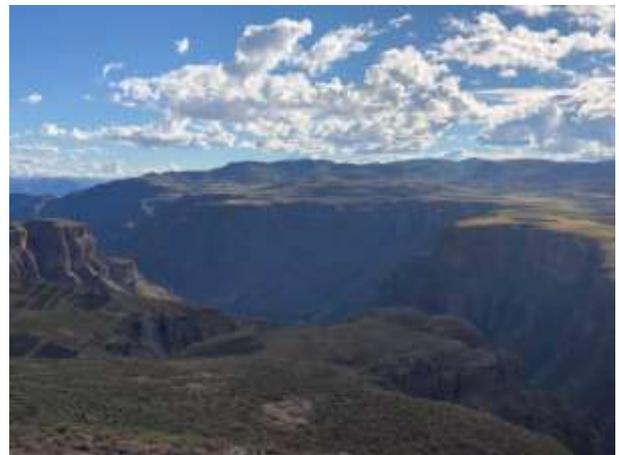
- レソト王国は世界で唯一、国土のすべてが標高1,000m以上、また、国土の2/3は標高2,000m以上の山岳国。
- 最も低い南西部で1,388m、最高点は南部アフリカ最高峰のタバナ・ントレニャーナ山の3,482mで、別名「天空の王国」、「アフリカのスイス」とも呼ばれ周囲を南アフリカ共和国に囲まれた内陸国。ちなみに、レソトの通貨単位である「ロチ(Loti)」はソト語で「山」を意

味し、複数系「マロチ (Maloti)」は「山脈」を意味する。

- 首都マセルは標高約 1 8 0 0 m に位置し、降水量は年間 5 0 0 mm、高地では 1 2 0 0 mm。
- 冬季（6～8月）には高地では降雪が頻繁にあるほど寒いが、11月～2月は比較的温暖。



首都マセル市街



溪谷

【民族】

- 人口は約214万人で、ほとんどの国民は比較的平地である西部に暮らしている。
- 人口の9割以上を占めるソト民族は、17世紀、現在のボツワナから南下してきた南ソト民族が居住してきたことを背景としている。レソト建国の父であるモシヨエシヨエ1世は、同民族の出身。
- 周辺国かつレソトより遙かに国土の広いボツワナ（レソトの約19倍の国土）、ナミビア（レソトの約27倍の国土）よりも人口密度が高い。
- 宗教は8割がキリスト教で、伝統宗教も信仰されている。
- 伝統的な衣装として、人々は国旗にもあしらわれている三角錐状のバソト・ハットをかぶり、カラフルな毛布のバソト・ブランケットをまとう。
- 公用語はソト語。同語は、隣国南アでも公用語の一つとなっている。挨拶は「ドウメラ（相手が複数の場合：ドウメラン）」。

【政治体制】

- 数少ないアフリカの立憲君主制国家であり、国家元首はレツィエ三世陛下国王。しかし、国王は政治的権力は有さず、議院内閣制を採用しており、行政の長は2020年5月からマジヨロ首相。

【経済情勢】

- レソトは後発開発途上国（LDC）の一つであり、干ばつや洪水等により慢性的な食糧不足に悩んでいる。同国の主産業は製造業、農業、建設業。わずかながらダイヤモンド等の鉱物資源も産出する。経済的には南アに大きく依存しており、レソト・ハイランド・ウォーター・プロジェクト（後述）からの収入と、南ア鉱山への出稼ぎ労働者の収入がレソト経済の重要な収入源となっている（在南ア・レソト人は約25万人）。

- 水資源を南アに供給し、水力発電による電力をレソト国内へ供給する河川開発計画「レソト・ハイランド・ウォーター・プロジェクト（LHWP）」は、建設業を始めとする経済を牽引しているほか、同国に毎月平均1700万ドルの利用料収入をもたらしている。
- 海のない内陸国であるため、漁業や養殖業とは無縁のように思われるが、高地のため冷たい水が入り、トラウト（にじます）の養殖が精力的に行われている。ダムの豊富な水を活用したトラウト養殖は2012年から始まり、生産量の一部が日本に輸出されている。



カツェダム

【観光】

- 南部アフリカ最大の落差（192m）を誇るマレツェンヤネ滝周辺でのポニー・トレッキング（レソトのポニーは気性もおとなしく、乗りこなしやすいことで有名）や岩肌の山を四輪駆動車で疾走する4×4マウンテン・トラックが、近年、特に欧米人観光客の間で人気が高い。
- 3,000m級の山々が広がるレソトは東部を中心に冬季に降雪し、リフトや宿泊施設が置かれた本格的なスキーリゾートがある。
- レソト南東部のサニ峠には、アフリカで最も高い場所（標高2,874m）に位置するパブがあり、スキーリゾートと共に観光客に人気のスポットとなっている。

【その他】

- レソトでは、ジュラ紀初期に繁栄していたとされる恐竜が発掘され、国名から名付けられた恐竜がいる。その名もレソトサウルス・ディグノステイクスと言い、草食、二足歩行、現代のガゼルに似た姿であったとされている。
- レソトはダイヤモンドの産出国として知られ、今世紀に世界で発見されたダイヤモンド原石の大きさをトップ10のうち、3つがレソトで発見されている。
- 2006年には603カラットのホワイト・ダイヤモンド原石、2019年には910カラットが採掘され、前者は「レソト・プロミス」、後者は「レソト・レジェンド」と名付けられた。

(了)